豪雨時の抜本的な排水対策を

吉川　議員

吉川　6月の豪雨では、農地や道路の冠水が広い範囲で起きました。被害状況は年々ひどくなっているが、被害状況はどうなっていますか。

氷川町は平坦地です。一度雨が降れば一気に農業排水路に流れ込み、農地や道路、宅地に溢れる状態です。農業だけでなく住民の安全を守るためにも雨水対策、排水対策が必要と思いますが計画はありますか。

農地整備課長　近年の豪雨等による冠水被害は役場前の幹線排水路及び導水路を中心に農地や道路の冠水がたびたび起きています。今年6月の豪雨でハウスが冠水し、作付けされていたメロンに被害が発生しました。

竜北地区の地形は中世紀から江戸時代に造成された干拓で、氷川・砂川・八間川があるものの、いずれも天井川で地区内の排水も排水機場からの強制排水に頼らざるを得ません。排水対策検討委員会の中で検討を行っていきたい。

冠水した水田

吉川　沖塘排水機場は潮位や遊水池の水位の関係でフル稼働できないと聞いています。また、氷川排水機場は排水能力が落ちています。氷川の上流地点に新たな排水機場を建設しなければ問題解決にならないのではないか。

農地整備課長　沖塘排水機場は氷川排水機場の補完的な施設として造られたもので、一番の欠陥は内水面、八間川に排出するということです。潮位や八間川の水位が上がれば排水できないことです。

県の基礎調査でも、新排水機場の建設という提案がなされています。検討委員会なかで、排水機場建設、ポンプの更新、排水路の整備などを検討していきます。

新幹線騒音・振動被害の対策を

吉川　新幹線沿線では列車が通過する際の騒音や振動がひどく、夜も眠れないと苦情が寄せられています。

平成23年に県が実施した調査の結果、氷川町網道地区は環境基準値を超えていたため、鉄道運輸機構が騒音対策を取り、基準値をクリアしたと言っていますが、網道地区のみなさんは、「以前よりひどくなった」「窓を開けて寝れない」と言っていますが、町は被害状況をつかんでいますか。

私は、独自調査をもとに鉄道運輸機構に改善を申し入れましたが、町は鉄道運輸機構やＪＲに改善を求めましたか。

企画財政課長　平成23年の開業以来、8件の苦情や要望がありました。鉄道運輸機構に連絡し、騒音・振動測定を行っていただき環境基準内と報告を受けています。個々の苦情についても鉄道運輸機構に改善要望を行っております。

今回、調査対象範囲以外からの苦情が多く、住民生活に支障が出ているので振動対策の実施を要望しております。

住民のみなさんの苦情、要望等についてはみなさんに寄り添った対応をしていきたいと思います。

吉川　鉄道運輸機構は氷川町から直接要望は来ていないと言っているので、住民の声を届けてほしい。

住民生活に支障、苦情が多い新幹線沿い

住民は2次調査が行われた時、「（騒音・振動を）測る時は（列車の）スピードが遅い」という話です。調査のデータを見ると公平に測定されていないと思います。氷川町独自で調査を行い、改善を求める必要があるのでは。

町長　住民のみなさんに不信感があるということであれば、住民の立場でものを申し上げていかなければなりません。独自調査してこうだと言うよりもお互いの共通認識のなかで調査を進め、改善するところがあれば改善要望をしていった方がいいかと思います。

地域振興策について

上田俊孝　議員

上田　地域振興は自治体の直面する課題です。県内の多くの自治体では人口の減少が続き若者には働く場がないという現状は深刻です。それぞれの自治体でも様々な取組が行われています。地域振興を計る目的で行う町の様々な取組の中で、梨マラソン、ウォーキング大会、ヘラブナ釣り大会等の歴史と経過と現状について、又、若者の働く場所提供について梨マラソン、ウォーキング、ヘラブナ釣り大会を通じて働く場所の提案提供等ができないか。そして人口減少の問題について、子供達が夢と希望をもてるイベント等を考えて、子供達が氷川町に住み続ける施策を講じてほしい。

商工観光課長　氷川町梨マラソン大会はこれまで6回開催しています。合併前の大会を含めると18回目の開催となります。大会は氷川町のアピールと町内外との親睦、産業の振興を目的に開催しており現在では1、000名以上の参加者です。

九州ヘラブナ釣り大会は7回目となります。現在は150名前後の愛好者が参加されています。産業振興と環境美化を目的としています。人口減少の問題については氷川町の魅力をアピールして愛着が深まる町づくりにしたい。

梨マラソン一斉にスタート

農業振興課長　ウォーキング大会は本町の優れた特産品、柑橘類や豊かな自然とすばらしい景観をアピールすることにより地域活性化を図ることを目的としています。若者の働く場の提供については就農相談窓口があります。

学校図書館の充実を

学校図書館の蔵書整備・充実に関する陳情を採択

陳情の内容は、児童生徒に活字離れ読書離れからくる思考力、判断力、表現力等の読解力に課題があることや、新学習指導要領に基づく調べ学習の単元化に伴う図鑑、辞典類の不足による蔵書充実を求めるものでした。4回の文教厚生常任委員会を開催した結果として、調べ学習に必要な高額な図鑑等は、各学校でそろえるのではなく、公立図書館で配備し、公立図書館と学校図書館の連携により少ない予算で蔵書整備が図れること又、合併により少額となった図書購入費を合併前の予算に戻すことで、蔵書の充実を図る必要があるなどの意見があり全員賛成で採択をしたと報告があり、議会で採決した結果、全員賛成で採択されました。

学校図書館

宇城氷川スマートインターチェンジ名称案を上申

小川ＢＳスマートインターチェンジ（仮称）の名称について各委員慎重かつ活発に協議を行い、10月5日の特別委員会で、正副委員長に町長の意見を踏まえて一任することを決定しました。10月7日に正副委員長が町長と会し、特別委員会での協議状況を説明し、町長の考えを聞いた上で「宇城氷川」とすることを決定し宇城市へ伝えました。

10月15日に本町特別委員会上田健一委員長及び宇城市特別委員会福田良二委員長の連名で名称案を決定する地区協議会へ「宇城氷川スマートインターチェンジ」の名称案を上申しました。